

審査評

日本で最も美しい村賞・北村健三「七夕の山崎ダム」

息をのむような美しい夜空です。画面向って左に2018年の火星大接近が写っていることで重要な「時の記録」が完成しています。二度と写せない本山の天体ショーに脱帽。

金賞・藤田威佳志「真夏の夜の饗宴」

夏祭りの舞台とフィナーレの花火を二枚出されていましたが、どちらを選ぶかで審査員が割れました。この写真が川面に写る赤い色と相まって、迫力満点という結果です。

銀賞・松木宣博「絆」

地域の皆さんの集合写真ですが、いろいろなことが読み解けます。共同作業の後でしょうか？満足そうな皆さんと、未来への希望をつなぐ子供たち。幸せで大切な写真です。

銀賞・前田昭子「実りの秋」

稲が実り、柿も実り、遠くの山には紅葉が見て取れます。撮影時期の良さと天候のバランスと申し分なく、作物以上に写真の内容も十分に実ったようです。

銅賞・谷脇良文「煌めく川面」

無風だったのででしょうか？堰で流れの緩んだ川面がまるで鏡のように平らです。冬のあたたかな1日、太陽の写り込みも計算され、のどかな風景写真が完成されました。

銅賞・徳弘知代子「夕暮れ時」

暮れなずむ本山の風景をオレンジ色と前景の橋脚で見事に表現されました。わずかな川霧と思いついた配色が一層の効果を上げています。見飽きない写真ですね。

銅賞・野中俊秀「放流」

審査員が「おう！」と声を上げた写真の一つです。全門開放というめったに見られないダムの放流をモノクロで見事に表現されました。モノクロの応募数はただ1枚でした。

銅賞・山野上清久「豊作の予感」

春の準備が終わった水田。人々が寝静まったころ大きな流れ星が一つ。なんだか童話の世界です・・・遠景の街灯りと飛行機の軌跡がアクセントになっています。

銅賞・横山彰「秋日和」

大銀杏が黄金色に輝き、暖かな晩秋の日差しにぴったりのお二人が入っています。背景と被写体の人物の年齢が見事にシンクロした頬がゆるむような1枚です。

天空の棚田賞・山下晃一「棚田ビュー」

名画を見ているような絶妙のシャッターチャンスでした。れんげ、田んぼ仕事。そして背景の棚田に斜光線のコントラストといい、臨場感あふれた見飽きない風景です。

入選・横山豊「柿の秋」

里の秋ならぬ「柿の秋」とつけられたタイトルに作者の写真に対する姿勢を感じます。遠景の柿の木も見事な位置で、おおきく写されたテルテル坊主から技量を感じます。

入選・芝崎静雄「実りの秋」

彼岸花の開花タイミングもそんなに長くはないので、狙ってこられたのでしょうか？見事なまでの満開と、稲穂の実のり具合です。何度もここへ通われている写真です。

入選・吉田美穂「桜舞い散る」

桜の花びらが舞い散る公園に複数の子供たちがいる、なんだか幸せな写真。子供たちの成長を桜が願うかのような写真とプリント用紙まで優しい配慮が届いていました。

入選・西岡季子「本山っ子」

夏の清涼感あふれる元気な子供たち。こんな場所で育った子供たちがうらやましく、また、かけがえのない故郷の光景として心に届く1枚のスナップです。

入選・STEVEN CARRERA(スティーブン・カレラ)「Tanbo Utopia(田んぼユートピア)」

コンテストでは初「ドローン」の応募ですが、遠い県外から、また遠い異国の方からの出品です。コンテストの醍醐味というか、空からだけに落とせない1枚の写真でした。

入選・谷脇晶江「癒しの里」

春の棚田ですが、今年は春の夜景がたくさん応募されており、そういう意味でも新鮮に感じる昼の写真になりました。運でしょうか？いいえ、たゆまぬ努力の結果でしょうね。

入選・三木雅也「夏」

今年の夏は全国的に猛暑でした。牛も暑さにたまらずか川に入って水遊びです。そして親子のペアが母牛の愛情を感じさせる貴重な1枚になりましたね。

入選・杉浦正幸「薰る汗見」

カメラが半分水中にもぐっています。まだ水は冷たかったでしょうが、アイデアと背景まで配慮の行き届いた撮影地に作者の努力のたまものでした。

入選・高岡信子「熟練の技」

だんだん珍しくなってきた「かじむし」の日。農家の庭先ですが広角レンズを象徴的に使いこなされて、いいカットが完成しました。もう一步踏み込めば上位を狙えますね。

入選・八井田晋「乳いちょうの縄替え」

それぞれの役割が写真の中からほほえましく、また集落の結束が伝わる良い写真です。ことしも写しにやってきましたよ！と作者も一緒になっての作業のように感じました。

総評

2018年は上位3名が見事にその役割分担というか、落としどころへ嵌ってしまい、もめることもなく各々の賞が決まりました。抜きんでた技術と完成度の高い三枚がほとんどの審査員から高い評価を受けました。撮影場所が重複しなかったのもよかったです。

さて、そこからが難航しました。今年特に多かったのが春の棚田の夜景、そして選にはもれましたが冬の雪の降る写真、これらの応募数が少なければ見比べることにもならず上位へ入ったのではないかと感じます。それぞれに良く票が割れてしまいました。

今年選に漏れたからと言ってあきらめず、ぜひ続けて応募いただきたいと思っています。町長さんをはじめ審査員の皆さんは「落とさざるを得なかった」印象深い作品を決して忘れることはないと思います。また来年もお会いできることを願っております。